成長ホルモン(GH)	1001000
	担当部署
GH	生化

検査オーダー

患者同意に関する要求事項		特記事項なし
オーダリング手順	1	電子カルテ→指示①→検査→*2.分野別→腫瘍マーカー・内分泌→
	2	
	3	
	4	
	5	
検査に影響する臨床情報		特記事項なし
検査受付時間		8：15～16：00

検体採取・搬送・保存

患者の事前準備事項	特記事項なし
検体採取の特別なタイミング	負荷試験時や日内変動採血指示などの指示がある場合、指示通り

検体の種類		採取管名	内容物	採取量	単位
1	全血	10 青	分離剤	8	mL
2	-	-	-	-	-
3	-	-	-	-	-
4	-	-	-	-	-
5	-	-	-	-	-
6	-	-	-	-	-
7	-	-	-	-	-
8	-	-	-	-	-

検体搬送条件	室温
検体受入不可基準	1)採取容器違いの検体 2)バーコードラベルの貼られていない検体 3)固形物 4)粘性のある検体
保管検体の保存期間	冷蔵・2 週間(追加検査については、検査室に要問合せ)

検査結果・報告

検査室の所在地	病院棟 3 階　中央検査部				
測定時間	当日中～翌日				
生物学的基準範囲	別紙参照				
臨床判断値	設定なし				
基準値				単位	ng/mL
共通低値	共通高値	男性低値	男性高値	女性低値	女性高値
設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし	設定なし
パニック値	高値	設定なし			
	低値	設定なし			
生理的変動要因	特記事項なし				
臨床的意義	GH は下垂体前葉より放出されるペプチドホルモンで末梢組織に直接またはソマトメジンを介して成長促進、蛋白同化、脂肪分解などの生理作用を及ぼす。 GH の分泌は日内変動のほか摂食、睡眠、ストレスなどにより大きく動揺を繰り返している. GH の大部分は睡眠中に分泌されるが、1 日 10 回程度の脈動的分泌も存在する。 GH の測定は下垂体前菜機能の診断に有用であり、末端肥大症、下垂体性巨人症など血中 GH 濃度が高値の場合、その診断および経過観察に用いられる. 三菱化学メディエンス　検査項目解説　改訂第 4 版 220				